

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2019年10月31日

No.4

災害対応で迂回運転や臨時作業に 応えてきた組合員の期待は大きい！

～2019年度 年末手当第2回交渉報告～

中央本部は本日、第2回交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

1. コンテナ輸送は、東海・九州地区での新規輸送および増税前の駆け込み需要で好調に推移した。一方で、農産物・青果物、清涼飲料水、化学工業品・化学薬品については計画を下回り、対計画△599百万円（94.5%）となった。
2. 車扱輸送については増税前の駆け込み需要などにより好調に推移し、車扱全体で対計画+127百万円（112.3%）となった。コンテナ及び車扱の合計は対計画△473百万円（96.1%）である。
3. 上半期のコンテナ輸送量動向は前年に「平成30年7月豪雨」等の大規模災害が発生した影響により、すべての品目で前年を上回った。10月期改定を行った対計画についても台風15号・19号の災害が発生する前までは各支社とも好調に推移していた。

【事業開発部門】

1. 鉄道事業は、年度末3月の東京レールゲートWEST賃貸開始にむけて最重点に取り組み、新規貸付の拡大や既存物件の賃料維持、業務費・修繕費の執行を的確に行うことにより、計画達成にむけて取り組んでいく。
2. 関連事業は、前年度の茅ヶ崎および八王子南口分譲マンションの反動減があるものの、賃貸を開始している八王子南口商業施設の増収、磐田分譲マンションの完成などによる増収を確実に進めていく。また、外部から取得した不動産による賃貸事業を開始する。

【組合の主張】

1. 上半期収入は対計画を下回っていたが10月期改定時に年度収入目標数値を変えていない。今回の台風災害で組合員は迂回輸送や代行トラック誘導など臨時作業の要請に応えてきた。今も不通区間復旧後の挽回輸送に奮闘している。
2. 前回の交渉で言われた「帳尻合わせ」とは何事か。そういう会社役員の姿勢に組合員は憤慨している。消費税増税も加わり出費が重なる時期の年末手当に対する期待は非常に大きく、要求に対して真摯に交渉に臨むこと。

【会社の回答】

1. 収入動向を説明したが、昨年度は約100億円の減収があった。今年度も自然災害が続き厳しい状況だが、災害復旧後に会社役員共々、収入計画達成にむけ職場一体で汗しているところであり、貴組合とは引き続き真摯に交渉に臨む。
2. 確かに帳尻合わせという発言があった。会社役員の発言であり会社の考え方であるという認識で構わないが、貴組合の要求の根拠を聞き、社内で議論したのちに会社の考え方を示していく。

最後に中央本部は、災害対応や挽回輸送に奮闘する組合員に対して、災害減収を人件費で帳尻合わせなどという会社役員の考え方は断固許さないことを主張し、交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は11月6日（水曜日）です。